

公務上死亡災害の発生状況

(平成30年度認定分)

令和2年2月

地方公務員災害補償基金

第2 公務上死亡災害発生事例

(2) 石綿曝露による被災

【事例 10】水道本管（石綿セメント管）補修等の業務に従事したことによる曝露

団体区分：市町村等 職員の区分：他の職員
死亡年齢：80歳代 災害発生年月：平成26年5月（初診日）
傷病名：悪性中皮腫 慢性閉塞性肺疾患

（概要）

被災職員は、水道本管（石綿セメント管）の補修作業、切断、研磨等の業務を行った際、粉じんを多量に吸収し、悪性中皮腫を発症した。

（安全・衛生対策）

過去にアスベストを扱う特殊業務に携わった者に対して、健康診断を実施。

【事例 11】石綿含有建材が使用されていた設備で点検作業をしていたことによる曝露

団体区分：市町村等 職員の区分：電気・ガス・水道事業職員
死亡年齢：60歳代 災害発生年月：平成26年12月
傷病名：悪性胸膜中皮腫

（概要）

被災職員は、電気事業職員として浄水場設備の日常巡視点検業務に従事していた。石綿含有建材が使用されていた設備に出入りし石綿を吸入していたため、悪性胸膜中皮腫を発症した。

（安全・衛生対策）

毎年肺レントゲン検査を実施するとともに、異変があった場合には相談するよう職員に対して注意喚起を行った。また、被災職員と同様の業務をしていた退職者に対して健康調査を行い、肺レントゲン検査を希望する者には受診費用の負担を行った。